

2015年5月15日

原子力規制委員会
志賀原発専門家調査団
重松紀生 様

地震爆発論学会
会長 工博 石田昭
(元・名古屋工業大学教授)

公開質問状

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

以下の2点を質問させていただきます。回答(無回答の場合も)は地震爆発論学会のサイト上で公開させていただきますので、期日までにご回答をいただければ幸いです。

質問1

昭和36年に安芸敬一先生が米国から帰国され、「地震は断層です。」と転向発言されたことは有名ですが、それ以前には「マグマ貫入爆発理論」という石本巳四雄先生らによる日本固有の理論がありました。この理論が否定されたのは、初動の押し引き分布が爆発現象では説明できないと考えられたことでした。しかし、熱解離によって発生する水素と酸素の混合ガスが「爆鳴気爆縮」を起こしている、とする「地震爆発論」では、押し引き分布の成生をうまく説明することが出来ます。この点に関する先生のご見解、あるいは「マグマ貫入爆発理論」を否定し、「活断層地震説」を支持される理由をお聞かせください。

質問2

島崎先生は「活断層とは何か」(東京大学出版会)の中で、「地震現象とは震源で“何か”が起こり、その結果地震の波が発生し、・・・」と記述しておられます。当然“何か”というのは「水素爆発」の可能性もあるはずですが、続く文章では「地震の震源域では、“ある面”(断層面と呼ぶ)を境として地塊がずれ、そのずれる運動によって地震の波が発生する。」と説明しています。「ある面」と言うのは「水素爆発」の結果として発生する“ずれ”である可能性も否定できないはずなのに、断定的に「断層面と呼ぶ」と決め付けておられるのは論理に飛躍があると思います。

石本巳四雄先生は、「まず、「震源」に「断層の成生」を仮定し、「初動分布」がその仮定に背馳しないという理由から、「地震の原因」がそれであると決定する。これは、「結論たるべき主張」が、すでに「前提」の中に含まれていることから、論理上からすれば「正常な証明」とはならない。すなわち、「地震波の放射」が「断層成生」にあらずと仮定しても「初動分布」が説明される場合に逢着するならば、以上の主張はただちに頓挫することとなるからである。」

と述べておられます。上述した「地震爆発論」でも「初動分布」は説明可能ですので、「ある面」を「断層面と呼ぶ」という主張は頓挫しているのではないのでしょうか。「活断層地震説」を支持される立場から、この点について、論理の矛盾をご説明ください。

以上宜しく願いいたします。

敬具

回答送付先 地震爆発論学会 会長 石田昭

〒465-0024 名古屋市名東区本郷2-57 CIM第三本郷 S-203

回答期限 2015年7月15日